

健脚競う伝統の日野路
日野町駅伝競走大会



大きな声援に後押しされ駆け抜ける

初秋の出雲街道根雨宿で健脚を競う、第58回体力づくり日野町駅伝競走大会が、役場から根雨1区までの折り返しコースで開かれました。当日は、駅伝の部に小学校や事業所などから13チーム、中学生から12チーム、高校生から2チームが出場。また、小学生ミニマラソン低学年の部（1キ）に16人、高学年の部（1・8キ）に16人が出場し、健脚を競いました。今年も黒坂小学校の全校児童が土曜授業として参加するなど賑やかになった大会。選手らは沿道から送られる大きな声援を受けながら、ゴールを目指し駆け抜けて行きました。

音楽でできずな深める

日野のまちつながりコンサート



会場も巻き込み息の合った合唱・演奏を披露

10月8日、町文化センターで「日野のまち つながりコンサート」が開かれました。これは、普段さまざまな場所で活動している合唱団などが集まりコンサートを行うことで、お互いのつながりを深めようと、日野高校が主催したものです。当日は、町内で活動する合唱団や中学校の吹奏楽部、町民ミュージカルの出演者らが演奏や合唱を披露したほか、地域住民も当日参加。一緒に町民歌「きらりこの町」などを合唱すると、会場から大きな拍手が送られていました。

あの時代を懐かしむ
サロンコンサート開催



軽妙なトークもコンサートのウリ!

10月15日、町文化センターホワイエで、サロンコンサート「昭和うたごえ喫茶」（ホールと共に歩む会主催）が開かれました。今回は、米子市で「昭和うたごえ喫茶」を開いているマジヨルカ武田さんを招き、懐かしの昭和歌謡を楽しみました。青春時代のころに聞いたという曲もあり、来場者の中には曲をリクエストする人の姿も。歌を口ずさみながら、昭和の懐かしさに浸っていました。また、マジヨルカ武田さんの軽妙なトークも光り、歌声と笑い声が響いていました。

小さな友だちに興味津々

0歳からのアートスタート



物語の世界に引き込まれる

10月15日、山村開発センターで、0歳から3歳の子どものための人形劇「お・お・き・く・な・あ・れ!」（親子でアートを楽しむ会「おひさま」主催）が開かれました。これは、親子で優れた文化・芸術に触れることで、豊かな人間性をはぐくんでほしいと毎年行われています。今年も、人形劇屋「たくたく堂（宇治市）」を招き、「ふわふわふよふよ」などの人形劇を鑑賞。実際に人形に触れるワークショップも開かれ、参加した子どもたちはたちまち笑顔に。大満足の日となりました。



自慢の歌声を披露

10月8日、町公民館で、黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）主催の手づくり敬老会が開かれました。
当日は、黒坂・菅福地区の75歳以上の高齢者61人が出席。安来節保存会による唄や踊りが披露され、長寿を祝ったほか、出席者によるカラオケ大会も開かれにぎわいました。
また、景品の当たるお楽しみ抽選会も開かれ、出席者は普段会えない人との話も弾み、楽しいひとときを過ごしました。

心和むひとときを。感謝と長寿のお祝い
黒坂・菅福地区手づくり敬老会



優秀賞を受賞した上谷さん(右から4番目)

日野郡産米のレベルアップを図る、日野川源流米コンテストが今年も開催され、10月22日に米子コンベンションセンターで行われた表彰式で、上谷修さん（久住）が優秀賞に選ばれました。
同コンテストでは、応募総数207点のコメの中から、その質や味の良さが競われました。上谷さんが生産したコメを含む上位4品は、特に食味値などが高いと評価されました。
表彰式後には、上谷さんのコメなど優秀賞を受賞したコメの試食も行われ、会場からは「おいしい」という声が上がっていました。

日野のコメはやっぱりおいしい！
第15回日野川源流米コンテスト

毛糸のやわらかさ、やさしさ感じて
ヤン・アート作品を町に寄贈



作品を寄贈したグループの皆さん

10月19日、巖ヤン・アートグループの皆さんが町役場を訪れ、毛糸を使った工芸絵画を寄贈しました。
ヤン・アートとは、あらかじめ色紙などに下絵を描き、その絵の上に着いた毛糸で色づけしながら、貼り合わせ仕上げしていく独特な芸術作品。約35年前に落語家の桂小文吾さんが考案し広まりました。
今回、寄贈された作品は、日野町の見どころが四季で表されたもので、昨年の生きいき「ひの」ふれあいまつりでも、展示されました。
同作品は、現在、町公民館で展示しています。ぜひ、ご覧ください。

ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第52回

そもそも「日野」って？ 地名が語る 日野の歴史①

日野郡、奥日野、日野郷など、古くからこの辺りは「日野」と呼ばれています。どのくらい昔からそう呼ばれているのでしょうか。

「日野町誌」には、「日野」という地名が史書に登場する

最初のもは、733（天平5）年に著された出雲国風土記の「伯耆国日野郡の堺阿志毘縁山に通じて…」であろうと書かれています。「日野」という名には少なくとも1300年ほどの歴史があるということになります。

また、同時期に編さんされた「古事記」には、ヤマタノオロチ退治の舞台として、「出雲の国の肥の河」が登場します。この川は斐伊川（鳥根県）とされていますが、日野川だとする説もあります。

「日野」という地名の由来については「日当たりのよい土地」「たたら製鉄の『火』との関連」などが考えられますが、面白い説に、「山あいの最奥部に位置するため、『鄙』(田舎)が転じて『ヒノ』となった」というものもあります。皆さんはどれが本当だと思いますか？

協力：日野町歴史民俗資料館友の会